

風土に根ざした 家づくり手引書



沖縄県土木建築部住宅課

はじめに

平成18年に住生活基本法が施行され、これまでの量の確保から質の向上へと住宅のストック活用が重要視されるようになりました。

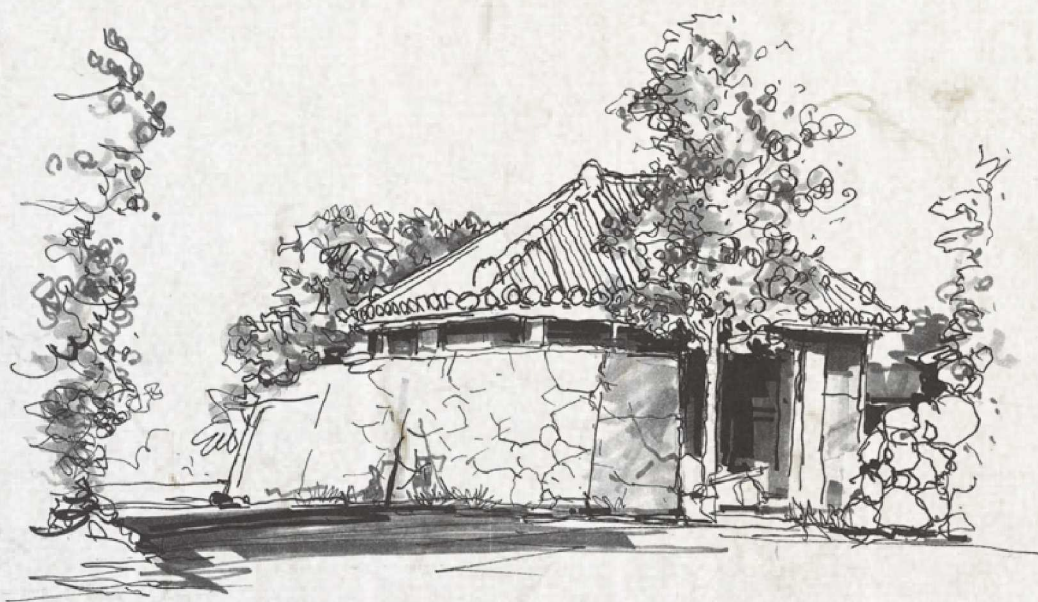
また、近年、地球規模での環境問題はますます深刻化しており、家庭部門のエネルギー起源CO₂の排出削減を進めるため、住宅・建築物分野では、住宅・建築物省エネルギー基準が改正(平成25年)される等、住宅の省エネルギー性能の向上が求められています。このため、安全で安心して暮らせる住まいはもちろん、長持ちする住まい、環境と共生し消費エネルギーの少ない住まいは、今後ますますその必要性が高まるものと思われます。

沖縄県では、県民の豊かな住生活の実現を目的とした「誰もが安心して心地よく暮らせる美ら島 沖縄」をテーマに「沖縄県住生活基本計画」を策定し、各種施策を展開しています。特に、本県の亜熱帯気候の下に、鉄筋コンクリート造の住宅が多いという、他県と異なる住宅事情から、独自の家づくりが求められています。その施策として、「沖縄の風土に適した住まいづくり」を掲げ、その普及啓発に取り組んでいるところです。

このような状況を踏まえ、平成9年度に作成した「風土に根ざした家づくり手引き書」について、“これからの省エネルギー住宅と沖縄の風土をどう折り合わせるか”、ということを中心にテーマとして新しい制度や環境共生手法等を取り入れ、改訂・発行することとなりました。

本手引書は、これから家をつくる際に気をつけてほしいポイントを記載していますので、県民の皆様の風土に根ざした住まいづくりの創造に、この手引書が役立つことを願います。

平成27年6月
沖縄県土木建築部住宅課



宮城島の民家 橋本弘徳

風土に根ざした家づくり 手引書

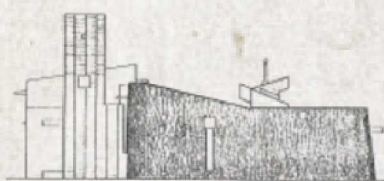
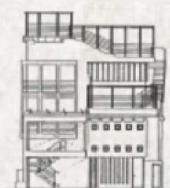
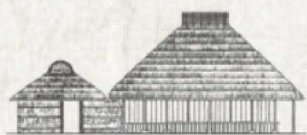
プロローグ

戦前の住宅は、木造で赤瓦または茅葺き等の屋根で、深い庇に、高い床と大きな開口部、屋敷を取り囲んだ防風林を持つ、地域性豊かな住宅でした。

しかし、今次大戦において、国土の中で唯一戦場となり、当時の全住宅戸数の約85%に相当する約10万戸が滅失し、文字通り「無」から出発を余儀無くされました。

戦後は、ツーバイフォー（米国輸入工法）による「規格住宅」が提供されましたが、度重なる台風の襲来と白蟻被害により、建物の恒久性に不安を抱かせました。それに対し、CB（補強コンクリートブロック）造の米軍家族向け住宅は、台風の被害がほとんどなかったことや、基地建設による技術の蓄積により、県内の住宅は、木造からCB造、RC（鉄筋コンクリート）造へと移行していきました。現在では、県内住宅の約8割をRC造が占めています。

このような背景の中で、耐久性と快適性を備え、省エネ技術を取り込んだ、沖縄の風土に根ざした家づくりが求められています。



CONTENTS

目次

第一章 沖縄の風土・自然条件

- 1-1 沖縄の風土…………… 2
- 1-2 沖縄の自然条件…………… 4

第二章 風土に根ざした家づくりのくふう

- 2-1 風土に根ざした住まいの表情…………… 6
- 2-2 敷地形態を活かした住宅…………… 8
- 2-3 間取りについて考える…………… 10
- 2-4 構造について考える…………… 12
- 2-5 安全な住まいづくり
（バリアフリー、台風、健康）…………… 14
- 2-6 地域の素材を活用する…………… 17
- 2-7 外構のくふう…………… 18
- 2-8 良好な街並みを考える…………… 18
（建築協定、地区計画）

第三章 沖縄の風土に適した住まい

- 3-1 沖縄の風土の特徴…………… 20
- 3-2 自然風を利用するには…………… 21
- 3-3 日射を遮るには…………… 22
- 3-4 外壁・屋根等を遮熱するには…………… 23
- 3-5 開口部を遮熱・断熱するには…………… 23

第四章 省エネ住宅とは

- 4-1 住宅の長寿命化と省エネを考える…………… 24
- 4-2 長期優良住宅の認定制度…………… 26
- 4-3 住宅性能表示制度…………… 26
- 4-4 低炭素建築物新築等認定制度…………… 27

第五章 風土に根ざした住宅の提案

- 5-1 郊外型住宅モデルプラン…………… 28
- 5-2 都市型住宅モデルプラン…………… 30

附 録

- 1. 建物維持管理を考える…………… 32
- 2. 沖縄県 住まいの総合相談窓口…………… 33